府立阿武野高等学校
校長　　岡本　真澄

令和６年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

生徒個々の「生きる力」「進路を切り開く力」の伸長を図る地域と密接に連携した教育活動により、地域社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される高校をめざす。
１　生徒が積極的に参加・活動する「わかる授業」を推進し、「スモールステップで学びを支援」し、「確かな学力」を育成する。
２　キャリア教育の充実に努めると共に、自立支援コース並びに専門コース等において特色ある教育活動を展開し、主体的に進路実現できる生徒を育成する。
３　教育活動全体を通じて、規範意識、人権意識の向上を図るとともに、地域との交流・連携を深め、安全・安心な学校としての信頼感を高めていく。

２　中期的目標

１　確かな学力の育成と授業改善
（１）「わかる授業」をめざした学習者主体の授業を行い、自ら学ぶ生徒を育てる。
　ア　生徒の授業参加と活動量を積極的に増加させたアクティブ・ラーニング(AL)や「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践を進め、生徒の基礎学力の向上をめざす。また、生徒の自ら学ぶ力を伸ばすための学習指導及び学習評価のあり方について実践研究を行い、指導と評価の一体化を進める。
　イ　ICT 機器を活用して、授業のユニバーサルデザイン化(視覚化・構造化・協働化)や「個別最適な学びと、協働的な学び」を進め、教員の授業力の向上を図る。
　ウ　教員相互の授業見学、他校や中学校の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。
　エ　「阿武野プロジェクト」（あぶプロ）を中心として、学習指導要領の趣旨を踏まえた組織的な授業改善を行い、生徒の学力の充実を図る。
　オ　国際交流事業、英語検定等を活用し、国際理解教育を推進する。
　※　授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(Ｒ３:87%、Ｒ４:88%、Ｒ５:85%)を上昇させ、令和８年度には 90%以上にする。
　※　教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合（Ｒ３:28%、Ｒ４:40.5%、Ｒ５:35.8%）を令和８年度には 40%以上にする。
　※　「生徒１人１台端末の効果的な活用」(Ｒ３：－%、Ｒ４:90.7%、Ｒ５:93.1%)を増加させ、令和８年度には 95%以上にする。
（２）学習環境の整備、授業規律の確立を図る。
　ア　学習環境整備、授業準備、授業規律の指導を徹底し、授業に集中できる環境を整える。

２　進路意識の高揚とコース制の充実
（１）進路指導部と学年が協力して、３学年間を見通した系統的なキャリア教育を実施し、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。
　ア　総合的な探究の時間(ライフ・プランニング＝LP)、LHR(ロングホームルーム)において、系統的・継続的なキャリア教育の充実を図る。
　※　進路決定率(Ｒ３:97%、Ｒ４:98%、Ｒ５:99%)を上昇させる。
　※　学校紹介就職内定率は 100%(Ｒ３:100%、Ｒ４:100%、Ｒ５:100%)を維持する。
（２）「自立支援コース」「スポーツ専門コース」「福祉・保育専門コース」をはじめ、すべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。その際、島本高校との機能統合を意識して教育活動に取り組む。
　ア　コース毎に、生徒の実態や保護者のニーズに応じた教育内容の充実を図り、進路実現に導く。
　イ　コースの特色に応じて多様な教育活動を展開し、地域との交流・連携を深める。

３　安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成
（１）すべての教育活動を通じて安全で安心な学校づくりを行い、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。
　ア　規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立を図るため、登校時の校門指導を強化し、一貫した生徒指導を行う。
　イ　LP、LHR において、集団づくり、アサーション・トレーニングやメディアリテラシーの取組を含めた人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。
　ウ　インクルーシブ教育の理念に基づいた「ともに学び、ともに育つ」教育、並びに地域の学校、諸団体との交流・連携を推進し、社会貢献を体験することで、生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。
　エ　防災教育、交通安全教育を計画的に継続して行う。
　※　遅刻について、前年度比５%の減少を図る。
（２）生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成するとともに、自らを律し他人を思いやる心を育てる。その際には、生徒を「褒めて育てる」「スモールステップで育てる」を意識する。
　ア　学校行事、生徒会活動の活性化を図る。
　イ　部活動の活性化を図る。
　ウ　一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実を図る。
　※　部活動加入率(Ｒ３:56%、Ｒ４:43.9%、Ｒ５:49.5%)を上昇させ、令和８年度には 55%以上にする。

４　地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上
（１）広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化する。
　ア　中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施し、地域の信頼感を高める。
　イ　学校教育活動全般について、適切な情報発信に努め、保護者、地域との信頼関係を高める。
（２）組織的、継続的に学校力の向上を図る。

５　校務の効率化と働き方改革
（１）生徒と向き合う時間を確保するため、ICT を活用して校務の効率化を図る。
　ア　グループウェア、学習支援クラウドサービス等を活用することで、校内の連絡、周知事項の徹底、意見交換を促進し、業務時間の縮減を図る。
　イ　削減可能な業務を洗い出して可能なものから実行するとともに、校内組織の見直しを進めていく。
（２）働き方改革の取組を進め、教職員のワークライフバランスの充実を図る。
　ア　時間外在校時間の縮減、年休取得の推進など、長時間勤務が解消できるよう努める。
　イ　生徒のみならず、教職員にとっても安全・安心な学校となるよう努める。
「教職員間の相互理解、信頼関係」(Ｒ３:94.7%、Ｒ４:97.3%、Ｒ５:100%)を令和８年度も 95%以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和６年 12 月実施分］	学校運営協議会からの意見
【１　確かな学力の育成と授業改善】 《生徒回答項目》（項目／肯定的回答／昨年度比、以下同じ） ＊授業への積極的参加／91.2.0%／＋5.2p	【第１回　令和６年６月５日（水)】 ・「学校に行くのが楽しい」という指標が大切である。オープンスクールで生徒が主体的に活動しているのは高校生の自信にもつながり、中学生が憧れをもつきっかけになるので

府立阿武野高等学校

＊興味関心をもって学習でき授業に満足している／77.1%／+3.1p
＊学習内容を理解することができている／80.0%／+1.4p
＊家庭での予習復習／20.4%／-2.5p
＊私語が少なくしっかり授業を聞く雰囲気／72.9%／+1.6p
＊清掃をおこない授業を気持ちよく受けられる環境整備／81.3%／+2.0p
＊授業開始時に必要なものを準備、課題の提出／87.7%／-1.5p
《教員回答項目》
＊学習指導や評価についての話し合い／88.9%／-4.7p
＊教材の精選と工夫／100%／＋0.0p
＊参加体験型やグループ学習など学習形態の工夫／93.3%／+1.8p
＊ICT 機器の活用／93.3%／-4.6p
＊授業規律の確立／66.7%／+5.0p
《保護者回答項目》
＊子どもは授業が分かりやすいと思っている／62.6%／－2.7p

・特に「授業に積極的に参加」が＋5.2P と上昇。各教科で教員が相談をして、難易度や授業構成・展開を工夫するなど、生徒の実態に応じた支援策を様々な形で用意したことにより好結果となった。
・一方、「家庭での予習復習をしている」は減少傾向にある。(R5:22.9%、R6:23.7%)。学校外でも学び続けられるように、勉強のしかた(学習スキル)を身に付けることの大切さにも生徒が気づき、工夫して学ぶ楽しさを見つけられるようにしていきたい。そのためにも、学習指導や生徒のやる気を引き出す評価方法について、教員間で話し合い、考え合う時間や場面を確保し、さらなる工夫・発展に今後とも努力していきたい。

【２　進路意識の高揚とコース制の充実】
《生徒回答項目》
＊進路学習の機会がある／95.2%／+1.1p
＊地域や外部講師から学ぶ機会／87.2%／+0.1p
＊専門コース授業の満足度（スポーツ）／89.1%／+3.6p
＊専門コース授業の満足度（福祉保育）／84.9%／-2.6p
《教員回答項目》
＊系統的なキャリア教育がなされている／82.2%／-7.1p
＊進路選択についてのきめ細やかな指導／93.3%／-0.4p
＊地域連携の機会／91.1%／-2.5p
《保護者回答項目》
＊進路学習についての丁寧な指導／78.8%／+1.9p

・系統的なキャリア教育の推進について、教員のポイントが-7.1P となった。2020 年度から始まった大学入試改革に伴い、試験の内容やスケジュールが変わる中、本校生徒が希望し選択する選抜方法・志願動向も変化してきている。進路実現に向け、従来行ってきた様々な取組について、生徒の実態に対応した見直しや工夫・改善が必要である。

【３　安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成】
《生徒回答項目》
＊学校へ行くのが楽しい／79.1%／-0.9p
＊保健室や相談室で相談することができる／69.4%／+0.5p
＊人権の大切さを学ぶ機会／95.6%／+1.1p
＊障がい理解が深まる／91.6%／－0.2p
＊いじめへの対応／85.5%／＋0.9p
＊生徒指導への納得／65.5%／+2.1p
＊防災や交通安全指導の機会／91.9%／+1.6p
＊学校行事満足度／87.6%／＋1.8p
＊委員会活動やクラス活動に積極的に参加／68.5%／+3.0p
《教員回答項目》
＊カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導／94.6%／＋2.5p
＊教育相談の体制／93.4%／+1.9p
＊人権研修の機会／97.7%／+1.9p
＊人権学習の取り組み／100%／＋4.3p
＊いじめへの対応と体制／97.8%／－0.1p
＊生徒指導体制／100%／+2.1p
＊学校行事の工夫・改善／91.1%／-0.4p
＊体育大会や文化祭のルールや役割分担／91.1%／+14.5p
《保護者回答項目》
＊子どもは学校に行くのを楽しみにしている／68.0%／－6.1p
＊子どもは自分のクラスが楽しいと感じている／71.3%／-3.7p
＊子どものことをよく理解してくれている／70.0%／－2.9p

非常に良い。
・観点別など評価については、中学校でも未だ途上であり、より妥当性・信頼性のある評価ができるよう模索している。
・自身の子どもはホームページを見て、校舎の様子、きれいさや、クラブ活動の様子などで高校を決めている。あまり深い部分までは見ていないのかもしれないので、パンフレットなどに力を入れるのは良いと思う。
・働き方改革により、公立の小中学校の教員が土日に地域のイベントに参加することが難しくなってきている中、阿武野高校のボランティア部が地域で取り合いになっている。
・自身の子どもがボランティア部に所属しており、その活動に下のきょうだいが一緒に参加した。その時の体験から阿武野高校に入学したいと言っている。やはり学校の生徒と中学生が関わる場面や機会があることが重要だと感じる。高校生が中学校を訪問するといったことも効果的かもしれない。
・きょうだい全員が阿武野高校に通っている。現在、在学中の子どもは中学３年生のときに見た阿武高際を見て入りたいと決めていた。そういったこれまでのつながりのあるところには魅力が伝わっているが、それ以外の方々に伝えるのが難しい。例えば、オープンスクールがあっても、学校への行き方がわからない、どんなところかわからない、このような点で選択肢から省かれてしまうのはもったいない。
・ボランティア部は学校名が入ったビブスをつけ活動している。高校生ならではの良い目線を持っているし、活動の中で社会を実感してくれていると思う。阿武野高校で育つ、こうした生徒の姿を広く発信すると良い。

【第２回　令和６年 10 月 30 日（水)】
・学習支援クラウドサービスについては、大学でも学ぶ道具の一つとして定着しているのを感じる。
・授業アンケート結果で、肯定的評価の割合が若干増えたとのこと。分析して対応していただけたらと思う。
・さまざまなイベントについて、準備する側の高齢化が進んでいたり、教員の働き方改革の影響で子どもたちの参加が難しくなったりしている。そのため、地域の高校生のニーズが高まっており、阿武野高校生の参加がとても助かっている。地域の事業の準備金が、コロナが落ち着いてきたことから倍増している。地域が学校ではできないようなイベントを企画し、地域の困りごとを高校生の探究的な学びとつなげてやっていけるようなアイディアを模索していけたらと思う。
・高校生は 18 歳で選挙権を得るが、選挙に行く意味を学べるような機会があるといいのではないか。なぜ勉強するのかを考えることも大事。
・阿武野高校の体育館で、毎週土曜日の夕方から夜に、小学生から一般の方、卒業生などで、チームを作って練習をしているとのこと。今、地域で、子どもたちがバスケットボールをすることができる場所がなかなかない。
・下の子どもが受験生で、阿武野高校の部活体験、オープンスクール参加した。弟は阿武野高校に通う兄の高校生活をそばで見ていて、阿武野高校は人を大事にしてくれる学校と感じており、それが弟の志望動機になっている。しかしながら、阿武野高校の良さが保護者に伝わっていないとも感じている。良さを伝える方法がないかと思っている。
・地域のボランティアに参加している。阿武野高校の生徒と一緒になり、生徒たちが活発に動いてくれていた。高校生の活躍ぶりに驚いた。学校生活の中でいろいろなことを学び、成長していることを感じた。
・普段の先生方の丁寧な関わりを、そのまま保護者に伝えていただければと思う。

【第３回　令和７年１月 27 日（月)】
・学校教育自己診断アンケートの分析について、(清掃の件など) 生徒がどう思っているか、保護者がどう思っているか、また教員とのズレを丁寧に見て分析していただけたらと思う。
・(学校教育自己診断の生徒、保護者の数値のズレに対して)生徒が望むものと、大人が思うものはやはり異なるのではないか。
・大人が求めるもの、子どもたちが思っている見え方、感じ方のズレは仕方ないが、そこは大人が教えていかなければならない。
・人間関係トラブルが増えている件については、中学校でも同じような傾向が見られる。今の中学生は喧嘩の落としどころがなかなか分からないし、折り合いをつける力が欠けていると感じる。
・SNS が普及されていなかった時代は、直接喋って、話していた。徐々に人との付き合い方が変わっている。希薄な関係になってきているのではないか。
・遅刻の指導について、やり方を変えるのは勇気がいること。担任任せにするより、学校全体で組織的に対応する方が正しいと思う。
・高槻市の災害ボランティアセンター立ち上げのシミュレーション研修に参加した。地域の地図を見て、危険な場所をピックアップした。内容は良かったが、参加者が高齢の方のみだった。もう少し若い方、高校生などに参加してほしい。実際何か起こった時、高齢の方が動けるとは限らないので若い人が参加するように勧めていきたい。
・自分たちの将来を一緒に考えられるような授業があれば、こういう仕事がしたい、こういう視点があるんだ、と学びに繋がって良い。

府立阿武野高等学校

＊保護者の相談への対応／83.6%／0p
＊人権を尊重する教育への取り組み／82.9%／-3.9p
＊いじめへの対応／71.9%／－0.7p
＊生徒指導方針に共感する／72.9%／-1.1p
＊子どもの文化祭や体育大会でのいきいきとした活動／89.0%／＋2.4p

・文化祭や体育大会、生徒会活動等の特別活動において、学校全体で生徒の主体的な活動を支援してきたことにより、生徒の「学校行事満足度」「委員会活動やクラス活動に積極的に参加」、保護者の「子どもの文化祭や体育大会でのいきいきとした活動」の数値が上昇。今後も、安心感や所属感がもてる「学級づくり」「集団づくり」に努める。
・週１回の教育相談委員会では、SC や SSW にも助言をいただきながら、生徒の現状把握、具体的な支援の在り方を定期的に議論できた。また月に１回「すまいる週間」を設けて、昼休みに教育相談室を開放して生徒が気軽に話ができるようにした。今後も教育相談活動を充実し、多様な生徒が安全に安心して過ごすことができる居場所づくり、学校づくりに努める。
・「教育相談体制」「いじめへの対応」「生徒指導の納得」について、依然として生徒・保護者と教員との間に数値の開きがある。学校が気づいていないことがあったり、対応について十分な満足が得られていなかったりしていることがあると思われる。学校の指導方針についての丁寧な説明とともに、学校と家庭が協力して子どもの成長を支援するという視点で保護者と協力していきたい。また、「学級づくり」「集団づくり」「居場所づくり」などの本校の様々な取組みを保護者や外部に発信し、知っていただくことも重要である。

【４　地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上】
《教員回答項目》
＊必要な情報を生徒・保護者・地域へ周知／91.1%／-2.5p
＊経験の少ない教員へのフォロー体制 68.7%／-7.9p
＊教育活動について日常的に話し合っている／95.6%／-2.3p

《保護者回答項目》
＊学校からの情報提供・意思疎通／80.0%／－2.6p
・ホームページに合わせて、リーフレットを刷新した。また、１月には SNS を開設し、試行的に実施した。生徒が授業やクラブ活動等で生き生きと過ごす様子を発信し、阿武野高校の教育活動の可視化を行っていく。

・教員の「経験年数の少ない教員へのフォロー体制」は-7.9p と下がった。「教育活動について、日常的に話し合っている」の項目は 95.6%(-2.3p)となった。全教員を対象にした研修会を計画的に実施しているが、さらなる対応策の検討が必要である。

【５　校務の効率化と働き方改革】
《教員回答項目》
＊経験の少ない教員へのフォロー体制／68.7%／-7.9p（再掲）
＊教育活動について日常的に話し合っている／95.6%／-2.3p（再掲）
・教員の「経験年数の少ない教員へのフォロー体制」は-7.9p と下がった。「教育活動について、日常的に話し合っている」の項目は 95.6%(-2.3p)となった。全教員を対象にした研修会を計画的に実施しているが、さらなる対応策の検討が必要である。（再掲）
・今年１月から始まった新しい校務環境には、クラウド一元化、統合型校務支援システム導入とともにチャット機能をはじめ様々なツールが備わっている。教員間の情報共有の促進、校務の統一化(標準化)・業務改善、教職員の業務負担軽減につなげていきたい。

・世間はインクルーシブ教育で盛り上がっているが、当事者は置き去りになっているのでは、と思うこともある。阿武野高校は手厚く見てくれて、とても良い。不満がない。先生たちが特性を理解・共有してくれている。それがとても大事だと思う。

府立阿武野高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R５年度値]	自己評価
１　確かな学力の育成と授業改善	（１）「わかる授業」をめざした授業改善 ア　指導と評価の一体化によるカリキュラムと授業改善の推進 イ ICT 機器を活用した授業 ウ　教員相互の授業見学等の活性化	（１） アイ ・生徒理解を基盤とし、学習指導と生徒指導を一体化した授業づくりを行う。(授業規律の一致した指導で授業を通じた生徒指導、楽しくわかる授業、一人ひとりが活躍できる・互いの意見を認め合う場を設定した授業) ・学習支援クラウドサービスを効果的に活用して、家庭学習の習慣化や基礎学力の定着・向上に取り組む。 ・１人１台端末を活用して、授業のユニバーサルデザイン化(視覚化・構造化・協働化)やアクティブ・ラーニング（AL)、「個別最適な学びと、協働的な学び」を進め、思考力・判断力・表現力や自ら学ぶ力の育成に取り組む。 ウ　教員相互の授業見学の活性化とともに、授業アンケート結果を各教科で分析・活用し、授業改善に取り組む。	（１）アイウ ・興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度を前年度[84.8%]より向上させる。 ・教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合を前年度[35.8%]を向上する。 ・学校教育自己診断[生徒]「生徒１人１台端末の効果的な活用」を前年度[93.1%]より向上させる。	（１）アイウ ・授業アンケート「授業内容の興味・関心」は、83.0%、「知識・技能の定着」は 86.1%と微減。（△） ・教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合は、38.7%。（○） ・学校教育自己診断[生徒]「生徒１人１台端末の効果的な活用」は、94.8%。（○） ・新聞記事の活用、教科内容と身近な事象と結び付けるなど、生徒の興味関心をひく工夫が進んだ。 ・ICT 活用について、教材提示だけでなく、データ分析や発表、意見交換、実技(動き)の確認など、生徒が ICT 機器を活用する授業が増え、より深い学びにつながっている。 ・学習支援クラウドサービスの活用が前進。定期考査の範囲とする、夏休みの課題とするなど課題配信を授業計画に組み入れ復習をしやすい環境づくりを行った。教員の働きかけにより、生徒の課題提出率は取組み初年度として順調。引き続き基礎学力の向上や学習習慣の向上に資する効果的な活用をめざして取り組む。
	エ　校内研修の充実	エ・「阿武野プロジェクト」（あぶプロ）が中心となり、授業規律、学習形態や学習内容の工夫等をテーマにした校内研修を実施し、落ち着いた学習環境の維持や学習指導と学習評価の工夫・改善を進める。	エ・校内研修を３回以上実施	エ　研究授業・研究協議を６月・11 月・１月に３回実施。（○） ６月…「学びのつながり」をテーマに四中校区つなぬくの先生方とも情報共有と協議を実施。 11 月…達成感をもつことができる授業づくり １月…支援教育を軸にアセスメントの仕方を学ぶ
	オ　国際交流等による異文化理解、英語力の向上	オ・国際交流事業や英検受検等を通じて、英語力と多様性尊重の態度を育む。	オ・オンライン国際交流（２回以上）や対面国際交流事業の活性化。	オ　オンライン国際交流は実施できず。３月末に米国・ワシントン州の姉妹校（ケントレイク高校）との国際交流を実施予定。４名の生徒が参加。（△） 授業中にオンライン国際交流が行いやすいアジアやオセアニアの国とのつながりや開拓が必要である。
	（２）学習環境の整備と授業規律の確立 ア　授業に集中できる環境の整備	（２） ア・学習環境整備、授業準備、授業規律の指導を各学年団で徹底し、授業に集中できる環境を整える。 ・担当分掌を中心に全教職員で校内美化を推進。	（２） ア・学校教育自己診断[生徒]における「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定的評価を前年度[71.3%]より向上させる。 ・同「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価を前年度[79.3%]より向上させる。	（２）ア ・「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定的評価は、72.9%。（○） ・1 年時より細やかな指導を通して授業規律を守り、誰もが安心して学習できる環境を作ることへの重要性の理解を生徒に促していく。 ・「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価は、81.3%。（○） ・清掃については、生徒と教員の認識(44.5%)が大きく乖離。清掃の意義を理解し、役割への責任感を持たせるような清掃指導を学校全体で行い、学習に集中できる環境を維持していく。
２　進路意識の高揚とコース制の充実	（１）主体的に進路を選択し実現できる生徒の育成 ア　系統的・継続的なキャリア教育の推進	（１） ア・ライフプランニング(LP)、LHR が３学年間を見通した系統的・継続的なキャリア教育として充実するよう、進路指導部・各学年・人権教育担当分掌で協議・検討し、より良いキャリア教育プログラムとする。 ・進路指導部・教務部・各学年団が協力して、補習・講習等を実施し、生徒の主体的な進路選択を支援する。	（１） ア・学校教育自己診断[生徒]における「進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[94.1%]より向上させる。 ・２年生の進路目標確定 95%以上。 ・卒業時進路決定率を前	（１）ア ・「進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価は 95.2%。（○） ・夏季休業中、学年各学年が補習・講習等を実施。また各担任が三者面談を実施。進路情報業者による進路ガイダンスや進学情報の請求、アンケートを実施し、進路意識の向上につなげた。 ・学習支援クラウドサービスを活用して、指定校推薦決定者向けに進学先での学びにつながる学習支援を実施。 ・２年生の進路目標確定は 100%（○）（３月確定） ・卒業時進路決定率は 99%（○）（３月確定）

			年度[99％]をより向上させる。 ・学校紹介就職内定率100％を維持。 ・進路指導部３年アンケートの「進路満足度」の肯定的評価の割合100％をめざす。	・学校紹介内定率は100％（○）（３月確定） ・進路指導部アンケートの「進路満足度」の肯定的評価は95.4％。（△）（３月確定）
	（２）自立支援コース、専門コース、選択科目等の教育内容の充実	（２） ア・専門コースや選択科目が生徒の進路に結びつくよう、教育内容の充実を図る。 イ・地域諸団体との交流・連携を推進し、進路意識の高揚を図る。	（２） ア・同「専門コースの授業に満足」の肯定的評価を前年度[86.5％]より向上させる。 イ・同「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[87.1％]より向上させる。	（２）アイ ・「専門コースの授業に満足」の肯定的評価は、87.0％。（○） ・「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価は87.2％。（○） ・地域の保育園、支援学校、高齢者施設、障がい者施設等との交流実習など出会いを大切にした授業を計画的に行い、当事者の方による講演会を充実させることができた。体験的な理解を促し、興味関心を深めることにつながった。 ・２年間に、個々人が課題を設定して実習に臨み、その課題を乗り越えていく過程が、生徒の成長実感や自信の獲得につながっている。うまくいかなくても、繰り返し挑戦する機会があることが効果をもたらしている。 ・夏季実習に多くの生徒が希望し、進路選択の幅を広げることにつながった。今後は生徒の実態に応じた系統的なキャリア教育プログラムとなるよう工夫・改善していきたい。
３　安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成	（１）カウンセリングマインドをもった生徒指導と人権教育の推進 ア　規範意識の高揚と基本的な生活習慣の確立	（１） ア・全教職員が協力して登校時校門指導を行い、丁寧な遅刻、頭髪、制服の指導を行うとともに、挨拶ができる生徒を育てる。 ・生徒一人ひとりが「阿武野高生の代表」であるという自覚を持ち、責任ある行動、言葉遣いができるよう一貫した生徒指導を行う。 ・入学当初から中高連携を丁寧に実施し、一人ひとりを大切にするカウンセリングマインドを持った生徒指導を推進する。	（１） ア・年間延べ遅刻数3,100人以下を維持。[3,263人] ・学校教育自己診断[教職員]「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価を前年度[91.5％]より向上させる。 ・同[生徒]「指導の納得度」、[保護者]「生徒指導の方針に共感」の肯定的評価を前年度より向上させる。[各63.4％、]74％]	（１）ア ・年間延べ遅刻数は、2,547件。（○） ・「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価は93.4％。（○） ・[生徒]「指導の納得度」の肯定的評価は、65.5％(○)、[保護者]「生徒指導の方針に共感」の肯定的評価は、72.9％(△)。
	イ　当事者や生徒どうしの対話を重視した学習 ウ　社会貢献活動と地域交流の推進	イ・１年次に地域交流による「障がい理解学習」を行う等、LP、LHRでアサーション・トレーニングやメディアリテラシー、ソーシャルスキルの獲得を含めた人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。 ウ・２年次に社会貢献活動「あぶねっと」を行う等地域交流を推進し、学校教育全般を通じて生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。	イウ ・同[生徒]「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[94.5％]より向上させる。 ・同「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価を前年度[80％]より向上させる。	イウ ・「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価は95.6％。（○） ・「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価は79.1％。(△) ・人権学習は質量ともに充実しているが、開催時期や内容については、今後も強化工夫が必要。生徒の実態を見ながら少しずつ改変していく。 ・１年…１学期より人間関係を作る上で人との距離感、言葉遣い等への課題があると考え、人権について考える時間をLPやLHRの中に増やした。11月には障がい理解学習を実施。当事者の方から直接話を聞くことで、人権の大切さを考え、学ぶ良い機会となった。 ・２年…「あぶねっと」では地域の様々な活動に参加し、人権意識と地域参画について学習を深めることができた。
	エ　防災教育、交通安全教育の推進	エ・防災教育、交通安全教育を計画的に行う。 ・自転車運転ルールの順守、マナーの向上について、交通安全テスト等を活用し、定期的な注意喚起を行う。	エ・防災教育、交通安全教育の各学期実施。交通安全テストの全員合格。	エ防災 ・１学期には火災を想定した避難訓練、２学期は交通安全教室、３学期には防災HRを実施した。（○） ・交通安全テストは、全学年で全員合格。（○）
	（２）生徒の自主的活動の充実	（２） ア・学校行事、生徒会活動の活性化を図る。 イ・部活動の活性化を図る。	（２） ア・同「学校行事満足度」の肯定的評価を前年度[85.8％]より向上させる。 イ・部活動加入率を前年度[49.5％]より向上させ	（２）アイ ・「学校行事満足度」の肯定的評価は87.6％。（○） ・部活動加入率は53.9％。（○）

			る。 ・生徒会や部活動による地域交流回数 30 回以上を維持する。 前年度[60 回]。	・地域の依頼を受け、生徒やクラブ員が複数のお祭りやイベントに出演者として参加したり、運営に携わったりして活躍した。地域交流は、57 回実施。（○）
		ウ・教育相談委員会を週１回開催する体制を構築して生徒の情報を共有し、周知を図る。ケース会議を通じて､SC(スクールカウンセラー)、SSW（スクールソーシャルワーカー)、福祉・行政の関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を維持する。 ・教育相談、キャリア教育、支援教育それぞれの分野の垣根を越えた包括的な支援体制づくりをめざして、保健室、スマイル（教育相談室)、図書室などで多様な生徒の居場所を確保し、多面的な生徒支援を行う。	ウ ・「個別の教育支援計画」の作成と適切な支援。 ・同「先生や保健室・相談室などで､相談することができる。」の肯定的評価を前年度「68.9%」より向上させる。	ウ ・個別の教育支援計画は必要な生徒にすべて作成。 ・「先生や保健室・相談室などで、相談することができる。」の肯定的評価は、69.4%。（○） ・週１回の教育相談委員会では、SC や SSW にも助言をいただきながら､生徒の現状把握､具体的な支援の在り方を定期的に議論できた。 ・月に一度､スマイル週間を設け､昼休みに教育相談室を解放した。お弁当を食べながら進路や学校生活のことなど気軽に話せる場となっており、生徒の変化や様子をキャッチし、早期支援につなげる取組としていきたい。
４　地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上	(１)広報活動の強化	（１） ア・中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。	（１） ア・学校説明会等の計画的、組織的実施 12 回以上。前年度[30 回]	（１）ア ・進学フェア、阿武野中学校への説明会、地域の中学校対象説明会､オープンスクール４回､クラブ体験会、出前授業、中学校訪問(37 校)など 13 回実施。 ・今年度も第１回オープンスクール前に部活動生徒による母校訪問を実施し学校の魅力を PR。 ・自立支援コース説明会２回、個別見学会 13 回。以上、合計 29 回（○） ・オープンスクールは､生徒会・クラブ員が中心となって運営。 ・今年度は PTA 会長のお話以外に、卒業生が話す機会を設けた。 ・気になる生徒については、随時出身中学校に連絡し、中高連携を図っている。
		イ・学校ホームページや様々な媒体を通じて、本校生徒の高校生活や授業の様子など教育活動の効果的な発信に努める。 ・文書、保護者メール、ホームページ等を使って保護者との連絡をより密接に行い、学校との信頼関係を向上させる。	イ・学校教育自己診断[保護者]「教育情報提供満足度」の肯定的評価を前年度[76.1%]より向上させる。	イ・「教育情報提供満足度」の肯定的評価は、77.7%。（○） ・ホームページに合わせて学校リーフレットをリニューアル。 ・１月より学校ブログ以外の情報発信として､SNS を試行的に実施。 ・年間５回の行事予定表の配布及び HP 掲載時期を早め、生徒・保護者等が学校の予定を､余裕をもって確認できるように努めた。 ・定期考査ごとに成績通知表を発行し､生徒・保護者が学習状況を把握できるように努めた。 ・在校生の保護者向けに、重要なお知らせ等､必要に応じてメールマガジンを配信。
	(２)組織的、継続的な学校力の向上	（２） ・日常的な OJT の推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・府教育センターや各研究団体等の研修を活用し、伝達研修の充実を図る。	（２） ・伝達研修を含む職員研修の実施 12 回以上。 ・同[教職員]「経験年数の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価を前年度[76.6%]より向上させる。	（２） ・伝達研修を含む職員研修の実施 12 回。（○） ・同[教職員]「経験年数の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価は、68.7%。（△） ・人権研修は､障がい､生徒への支援方法をテーマに３回実施した。また､２月に多様な進路を実現させるための学習会を実施予定である。 ・今年度､経験年数の少ない教員､初めて担任する教員に対しての研修を実施。全教員を対象にした研修会を計画的に実施しているが､さらなる対応策の検討を行う。

府立阿武野高等学校

５　働き方改革の推進と教職員のワークライフバランスの充実	（１）ICT による校務の効率化	（１） ア　・校務処理システムやグループウェア、学習支援クラウドサービスを活用することで、情報の一元管理を進める。家庭との連絡、校内の連絡、周知事項の徹底、教職員間の意見交換等を促進し、業務時間の縮減を図り、生徒と向き合う時間を確保する。 イ　・削減可能な業務の洗い出しを行い、可能なものから実行するとともに、校内組織の見直しを進めていく。	（１） アイ ・(あぶプロ)働きやすい学校を考える会を１回以上実施する。	（１） アイ ・「効率的な働き方や仕事の優先順位を考える」をテーマにワークショップ型の研修を１回実施。（○） ・教務部では業務内容の「見える化」を推進し、業務分担を改善した。また、業務内容に関する「マニュアル」を作成し、教務経験が浅い教員でも作業に取り組みやすい環境を整えた。 ・令和５年度から始まった欠席連絡システムについては、情報の一元管理ができるだけでなく、担任団での生徒情報の速やかな共有につながっている。 ・今年１月から始まった新しい校務環境には、クラウド一元化、統合型校務支援システム導入とともにチャット機能をはじめ様々なツールが備わっている。教員間の情報共有の促進、校務の統一化(標準化)・業務改善、会議のペーパーレス化など、教職員の業務負担軽減につなげていきたい。
	（２）働き方改革の推進、教職員のワークライフバランスの充実	（２） ア　・時間外在校時間の縮減、年休取得の推進など、長時間勤務が解消できるよう努める。 イ　・生徒のみならず、教職員にとっても安全・安心な学校となるよう努める。 ・OJT の充実や ICT の導入によって業務の効率化を進め、ストレスチェック制度の有効活用も行い、教職員の負担感軽減を図る。	（２） アイ ・学校教育自己診断［教職員］「教職員の相互理解、信頼関係を前年度［100%］を維持する。 ・ストレスチェック結果の総合健康リスクが事業場全体より下位を維持する。	（２） ・「教職員の相互理解、信頼関係」の肯定的評価は、93.3%。（△） ・ストレスチェック結果の総合健康リスクは 86（R５:97)。（○） ・仕事の偏りを解消したり、課題解消のノウハウを全体で共有したりするなどして、仕事の量的な負担感を減じていきたい。 ・今年度、経験年数の少ない教員、初めて担任する教員に対しての研修を実施。全教員を対象にした研修会を計画的に実施しているが、さらなる対応策の検討を行う。(再掲)